

磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会記録

(第 7 回審議会)

会議日時	令和 3 年 5 月 20 日 (木) 午後 3 時 00 分開会			
	午後 3 時 25 分閉会			
場所	オンラインにより開催			
出席者数	委員定数 6 名中出席者 5 名			
出席委員	小田 理恵子		五十嵐 大輝	
	小澤 綾子		中嶋 貴子	
	尾崎 えり子			
欠席委員	玉置 真悟			
出席した者	磐梯町 CDO	菅原 直敏		
	デジタル変革戦略室長	小野 広暁		
	地域活性化起業人	星 久美子		
書記	デジタル変革係長	長 泰志		
付議案件	磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会 (1) 報告事項 ① 官民共創プロジェクト認定事業の進捗について (2) 協議事項 ① 官民共創プロジェクト審査会委員の選出について (3) その他			
会議の概要	(別記のとおり)			

【会議の概要】

- ・ それでは、定刻となりましたので、第 7 回磐梯町官民共創複業テレワーク審議会を始めさせていただきます。まず小田会長より挨拶をお願いします。(小野)
- ・ 皆さん、こんにちは。審議会の方も早いもので 7 回目ということで、さまざまに審議をさせていただいておりますけども、さらにですね、今後は深掘できるといいのかなと思っていますので、よろしくお願いします。(小田)
- ・ はい、それでは審議会設置要綱の規定によりまして、会長が審議会の議長として進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。(小野)
- ・ よろしくお願いします。では、議事進行させていただきます。
まず、その 1 として報告事項 官民共創プロジェクト認定事業の進捗状況についてということで、小野室長、お願いします。(小田)

- ・ はい、官民共創プロジェクト、愛称宝ラボでございます。こちら現在活動中の認定事業 3 件の進捗について説明させていただきます。画面を共有させていただきます。共有されておりますでしょうか。

はい、こちら 1 件目がですね、謎解きロゲイニングということで、高校生の方から提案があった、町内のチェックポイントを回ってですね、写真を撮って事務局に送るとポイントがゲットできるというようなゲーム形式のロゲイニングなんですけど、こちら堀江貴文さん、ホリエモンさんも絶賛したという非常に素晴らしいプログラムでございます。こちら本当に町内を回って町民の方々と触れ合って、巻き込んでというような素晴らしいものなのでございますが、昨今のコロナの状況がございまして、今の予定では 6 月に一度状況が安定していれば試験的に実施をしてみて、7 月から本格的に運航を開始してみたいというものとなっております。こちらの左側の斎藤さんって方、高校生でございます。この方が提案していただいたという、すばらしいアイデアでございます。

続きまして、2 件目がですね、P O N 酒女子による磐梯町日本酒 P R ということでございます。こちらですね、資料としては P D F じゃなくて動画だったりするんですが、今出てますでしょうか。これ以前のプレゼンの資料だったりするんですけど、磐梯町のお酒、そういったものをですね、どんどん P R をしていこうということで、現在隔月でイベントをしていきたいということで進めているところでございます。こちらについて私も日本酒大好きでございますので、こういうイベント ぜひ参加をしていきたいなというふうに考えてございます。

続きましてですね、3 件目がですね、ちょっと雰囲気が変わりまして、町のデジタル変革プロジェクトに対するものでございます。N T T データさんと磐梯町の方で共同で取り組んでおります昨年から継続になっている事業であります。A i スピーカーを活用した高齢者への行政情報の伝達、もしくは見守りということなのでございますが、画面は特段ないですけども、ちょっとこんなものですよっていうので見ますと、Google のスマートスピーカーがでございます。これを高齢者宅に置いて、見守りなり、会話とか、例えば磐梯町の今日の日程、今日はごみの日ですよとか、なんとか体操の日ですよとか、検診の日ですよとか、カレンダー機能を使ったリマインドとか、そういったも

のでできるのではないかということでやっているものでございます。現在、民生委員さんとか、あとは役場、高齢者の関係機関、介護福祉施設でありますとか、包括支援センターとか、医療機関とかそういったところにいろいろヒアリングを行っておりまして、果たしてどんな形で使えるかということで、N T Tデータさんと機能の検討を行っているところでございます。今後ですね、機能を実装したA iスピーカーを希望する高齢者宅に配付をいたしまして、実証実験を執り行う予定になっております。早ければ7月に開始できるという予定になってございます。

はい、こちら現在活動中の認定事業3件の進捗状況を説明させていただきました。以上でございます。(小野)

- ・ 小野室長、ありがとうございます。様々なですね宝ラボのほうもいろんなプロジェクトがどんどん認定されてますね。皆さん、委員の方からご質問ですとか、ご意見ですとかあれば、ぜひお願いします。(小田)
- ・ はい、尾崎です。いいですか。(尾崎)
- ・ はい、お願いします。(小田)
- ・ 高校生のは、本当に素晴らしいなと思いましたし、高校生が作っているからではなく、シンプルなものすごく面白そうなので、子供たちと一緒に行ってみたいという気分に多くの人たちになるようなプロジェクトだなと思って、とてもいいなと思って聞いていました。はい、感想でした。(尾崎)
- ・ ありがとうございます。他の委員の方、ぜひ感想を含めてお願いできればと思います。(小田)
- ・ はい、私も。(中嶋)
- ・ はい、中嶋さん、お願いします。(小田)
- ・ 私も、謎解きロゲイニング、初めてロゲイニングという言葉を知ったんですけども、高校生の方がホリエモンの前でプレゼンしている映像も拝見させてもらったんですけども、すごく面白そうだなと思ったし、私自身も磐梯町に来て9年になるですけど、実際行ったところのないところ結構ありそうだなって思ったので、この機会に子供たちもクイズラリーじゃないですけども、動きながら親子で楽しめそうなので、地元民としてもぜひ参加して広げていきたいというふうに感じています。以上です。(中嶋)
- ・ ありがとうございます。小澤さんもぜひご意見があれば、感想などお聞かせください。(小田)
- ・ はい、本当にどれも素敵なプロジェクトで、これからが楽しみだなと思っているんですけど、スマートディスプレイのところ、これからも高齢者宅が増えていくと思うので、どういうふうになっていくのか、デバイスは配付されてもちゃんと機能するものになっていくのかというのは見どころかなと思っていますので、ぜひ成功事例にさせていただいて、他の市町村にも広げられるといいのかなというふうに思っております。日本全体の課題かなって思っておりますので、先駆けて解決に繋がっていくといいなと思っております。(小澤)
- ・ はい、ありがとうございました。小野室長、今のご意見を受けて何か一言あればお願いします。(小

田)

- ・ 中嶋さん仰っていただいたようにですね、謎解きロゲイニングも PON 酒女子の方もそうなんですけれども、いかに町民を巻き込んでいけるかということが非常に重要になってくると思います。一番良くないパターンっていうのは、よそ者がやってきて何かやってるよっていうふうにならないように、間に入る我々がうまくそれをコーディネートしていかなきゃいけないというふうを考えております。その町民の巻き込みをしていくのは誰なのかということを、間に入るは我々なんですけれども、実際キーパーソンになるような町民の方々、1人が動くと10人が動くような人達をですね、見つけて、捕まえて、仲間になってもらってというのでしょうか、一緒にやっていくということが必要になってきます。これは、これから先ですね、いろんなデジタル化とか、いろんなことを進めていく中でも同じだと思いますので、こちら辺、現地にいる我々が頑張ってるやっていますので、ぜひ見守っていただきたいと思います。(小野)
- ・ はい、ありがとうございます。本当に町民と色々な地域の人達とどう混じっていくかって、すごく大事な取り組みですね。そのモデルを磐梯町さんの方がどう進んでいくのかってことはかなり注目されていくことだと思いますので、ぜひ頑張って推進していただきたいと思いますというふうに思います。ありがとうございます。(小田)
- ・ すみません。1点ちょっと申し忘れました。小澤さんからお話しいただきましたとおり、Ai スピーカーの件でございます。Ai スピーカーは既存の製品のスマートスピーカーでございます。そこに高齢者見守りのアプリを乗っけていく、民間が開発したものを乗っけていく。というところからですね、実際、高齢者、ひとりぐらしの高齢者とか高齢者世帯とか、その中で実際どれだけ使っていけるのかということについて、開発者側と現地に入っている我々と間の擦り合わせって結構難しいものだなというのを実感しているところです。いわゆるインターネット環境がない高齢者宅にインターネット環境が必要な Ai スピーカーを置いていく。そういった難しさも感じているところであります。もしかすると、ある程度10年、15年すれば80代、90代のインターネット利用率が8割、9割になっていくと思います。その時にはいろいろとやりたいことが自由にできると思うんですけど、現段階でそこら辺をどのように解決していくのか。上下水道のようなインフラがインターネットとかそういったインフラになっていけばいいでしょうけれども、今はどうしてもなかなかそういうわけでもなくて、いろんな会社さんのインターネットに接続があったりして、そこらへんちょっといろいろ難しい課題を感じているところでございます。(小野)
- ・ はい、ありがとうございます。ちょっと、ぱっと思いついたのが、私もそうなんですけど、よくデバイスの電源が切れてしまったりとか、そもそも動いていない状態になってしまっていることがあるので、インターネットに繋がる機器をうまく使っていく & やっぱどこかしらで人が介入していくことも必要なのかなと思って、「うまく動いていますか。」という声掛けがどこかで入ったりとか、「使い方はわかってますか。」みたいなサポートっていうのと、デジタルっていうのが融合していくといいのかなと思っていました。(小澤)
- ・ ありがとうございます。発言させていただきます。本当にデジタル化っていう言葉を聞くと、人と人とが今我々がやっているようにオンラインで繋がって直接触れ合う機会がないとっていうふう

な意見を出される方もいらっしゃいますけれども、やはり高齢者の方々に Ai スピーカーをポンっと預けたから、それで OK だ。見守り完璧だっていうのが決して本質じゃないと思っております。基本は、民生委員さんとか、地域の方々が見守っていく、そして、そういったデジタルデバイスを使うときには、それ使えないよ、分かんないよって人達のために、それを支援する人が必要になってくると思います。こちらは磐梯町ではですね、デジタル支援員制度っていうのを町内に設けるということにしております。これを例えば地元のちょっとデジタルに詳しい人、ちょっとセットアップくらいできますよって人、もしくは、民生委員さん中에서도ちょっと詳しい人、ちょっとこれはアイデアの段階ではあるんですが、デジタルネイティブで本当に子供の時からそういうのに親しんでいる中学生とか、そういった方々を民生委員さんとセットでそういった高齢者宅に行って、そういうサポートをするとか、そうすれば高齢者との交流とか、そういったものにもなるのかなというふうなアイデアというのは、一応考えていたりします。Ai スピーカーが入ったら、ぜひデジタル支援員につきましても、試行、お試しで進めてい行きたいなというふうに考えております。以上です。

(小野)

- ・ ありがとうございます。今デジタルデバイドの世界で国の方も制度の話とか今日発表がありましたけど、磐梯町さんの取り組みって、それに先んじているなと思いました。今、子供たちとの関りのお話もありましたので、ぜひその辺も我々もいろいろと意見を出させていただいて、より良いものになっていくといいのではないかと思います。ありがとうございます。

何か、皆さんの方から改めてご意見等ありますでしょうか。

はい、ありがとうございます。なければ、次に進みたいと思います。

その2、協議事項といたしまして、官民共創プロジェクト審査会委員の選出についてということで、こちら小野室長、お願いいたします。(小田)

- ・ はい、それでは協議事項、官民共創プロジェクト審査会委員の選出について説明させていただきます。画面を共有いたします。前回の審議会の中でも若干触れた内容でございます。官民共創プロジェクト、通称宝ラボでございますが、こちら要綱の改正を行いまして、審査会に関する規定を追加させていただきました。

審査会の構成でございますが、当初案ではですね、何々長とか、何々会長とかいった委員の当て職が多かったわけですが、こちらの方でいろいろ検討させていただいた結果ですね、実際に審査できる人、実効性のある審査ができる人、そういった方々を審査員にした方がいいじゃないかということで、こちら(1)から(5)ということで、まず、副町長、こちらは行政の代表ということでございます。(2)現在開催しております、磐梯町官民共創複業テレワーク審議会委員、こちらから1名、(3)町民、(4)識見を有する者、(5)その他町長が必要と認める者、この5人で構成することとさせていただきました。

経緯を説明させていただきますと、この委員、公募を行っておりました。(3)の町民、(4)の識見を有する者、こちら公募した方から2名、面接を行いまして、選考させていただきまして委嘱する予定となっております。(5)のその他町長が必要と認める者でございますが、固定するものではなくて、先ほども説明させていただきましたように様々な案件があがってきます。交流人口の創出であったり、町のDX化の推進であったり、いろいろございますので、つきましては、その案件に応じてその部門の者、もしくは、それに詳しい方、そういった方を審査会に加わっていただいて審

査していこうというふうに考えてございます。

3から以降につきましては、任期は1年とする。云々というのは、細かい内容となってございます。審査会の開催フローでございますけど、具体的な開催につきましては、このような形でオンラインでやっていきます。オンラインの中では、プレゼンを行っていただいて、比較評価をして、審査員の方々に評価をしていただいて結果を出すという形でございます。資料にはないんですけど、今後のスケジュールとしまして、一応四半期毎にこの審査会を行って、四半期までに申込みのあったものの案件について審査をして認定をしていくということで考えております。年4回の開催を原則とするということでございます。ただし、審査会を待っていたら機を逃しちゃうよってというような案件があった場合につきましては、随時開催をする予定でおります。で、審査にあがったものを全部審査かけるかというものではありませんで、締め切りで取りまとめたものについて事務局の方でWebでヒアリングを行いまして、その中で合格したものを審査会にかけていくという予定でございます。

第1回の第一四半期分の審査会につきましては、6月の26日を予定しているところでございます。今回、官民共創複業テレワーク審議会の委員の方から1名この審査会の委員になっていただきたいということでございまして、そちらの方をご審議をお願いしたいと思います。以上でございます。(小野)

- ・ はい、ありがとうございます。今、室長の方からこの審議会委員の中からこの審査会のメンバーをお一人との話が出ました。特に異論がなければ私の方で指名させていただこうかなと思っているんですけど、その形でよろしでしょうか。
地域とこれからやられる方々をどう連携していくのかというところでは、すごく楽しい取り組みでもあり、地域連携というところがすごく重要になってくると思いますので、ここはですね、地元のお住まいの中嶋さんがよろしいのではないかなというふうに思っておりますけれども、皆様の他の尾崎委員、小澤委員、いかがでしょうか。(小田)
- ・ 問題ないです。ぜひ地元盛り上げていただければと思っております。(小澤)
- ・ はい。(小田)
- ・ 私も同じく中嶋さんが良いと思います。(尾崎)
- ・ はい、ありがとうございます。そうしましたら、私の方から中嶋委員を推薦させていただきます。小野室長、いかがでしょうか。(小田)
- ・ はい、中嶋さん、それでよろしければ、ぜひお願いしたいと思います。(小野)
- ・ かしこまりました。楽しそうな審査会になるじゃないかなというふうに思いますので、ぜひ磐梯町と一緒に何かやりたいという方との出会いを楽しみにやってみたいと思います。ありがとうございます。(中嶋)
- ・ ありがとうございます。ぜひ、その中での様子等もですね、この審議会の方でも中嶋さんの方からいろいろ教えていただければありがたいと思いますので、お願いします。(小田)

- ・ そうですね、よろしくお願いします。ありがとうございます。(中嶋)
- ・ そういたしましたら、委員の選出の方はこちらの方でよろしいでしょうか。
つきましては、その他の方に進みたいと思います。3番、その他としまして審議会6月の開催方法及び日程についてということで、こちら小野室長、お願いいたします。(小田)
- ・ はい、それでは説明させていただきます。6月の審議会なんでございますが、日程、日時に関しましては、後ほど個別に調整をさせていただきます。こちらですね今コロナの拡大している状況でございますので、こちらをオンラインで開催するのか、前々から予定しておりました磐梯町でリアルで開催するのか、こちらにつきまして皆様にお諮りしたいと思います。よろしくお願いいたします。(小野)
- ・ 承知いたしました。この場でオンラインか、それとも現地でという形で協議をするということでしょうか。(小田)
- ・ はい、状況を見てというような事もございますので、そちらのことを含めてですねご検討いただければと思います。(小野)
- ・ はい、承知いたしました。まだ6月ということで、まだ、状況は見えない中でどうしましょうか、という話になるかとは思いますが、それぞれの方のご都合ですとか、ご意見があれば、お出しただけたらと思いますがいかがでしょう。
はい、尾崎委員お願いします。(小田)
- ・ ありがとうございます。すごく行きたいです。実際に見てみたいと思いますし、謎解きのやつも参加してみたいというふうな気持ちはあるんですけども、やはりちょっと、関東とか東京に近い千葉でいるので、なんかとても不安です。うつしてしまったら不安ですというところが、せっかく磐梯町の未来のために行くのに、磐梯町に持ってちゃうと、本当に怖いっていうのもあるので、どのくらいになれば落ち着くのかなっていうのは、私も全然わからないので、様子を見ながら、または、私たちにはワクチンが回ってくるのがいったいつ頃になるのか全く見当がつかないのですけれども、安全な状態で行きたいなっていうふうには思っています。(尾崎)
- ・ はい、ありがとうございます。私も同感でございます。小澤委員は、今どのようにお考えでしょうか。(小田)
- ・ そうですね。私も同じく考えておまして、今、変異種がどんどん増えてきている段階でありますので、ちょっとそれに対してもどうなっていくのかっていうのは、皆さん注目されているところだと思いますので、もう少し様子を見て、世間が落ち着いてから行きたいなというふうに思っております。謎解きもぜひ私も参加したいと思っておりますので。その日を楽しみにしております。(小澤)
- ・ はい、中嶋さん、現地にいる身としていかがでしょうか。(小田)
- ・ そうですね。皆さんと直接お会いしていろんなお話して、謎解きも一緒にやりたいところなんですけども、やっぱり、皆様と同じ気持ちですね。落ち着いたところに皆さんとゆっくりお会いできれば

いいかなというふうに思っております。(中嶋)

- ・ ありがとうございます。ということで一旦まだ状況が見えない中でいうこともありますし、皆さん、落ち着いてじっくりというふうに仰っていますし、今オンラインの方でこのような形でも議論進めるような形でやらせていただいていますので、6月はオンラインで進めるという形でいかがでしょうか。

はい、異論なさそうです。委員の方からのリクエストとしては、オンラインでという形でやらせていただきたいと思います。小野室長、いかがでしょうか。(小田)

- ・ はい、菅原CDO、そちらでよろしいでしょうかね。(小野)
- ・ はい、いいじゃないでしょうか。はい。(菅原)
- ・ はい、次回6月はオンライン開催ということで。もうしばらく我慢の時ということでよろしいかと思います。(小野)
- ・ 他に何かございますでしょうか。皆様の方から。
大丈夫そうですね。よろしければ今日の審議会をですね、少し短めではありますけれども、こちらの方で終了とさせていただきたいと思います。皆様、お疲れさまでした。(小田)
- ・ はい、会長、ありがとうございました。それでは、以上をもちまして第7回磐梯町官民共創複業テレワーク審議会を終了させていただきます。皆様大変ありがとうございました。(小野)

以上で審議会を終了し、閉会する。(15時25分終了)

